

あなたの声を町政に

一般質問時間は、一人30分
一問一答方式で行いました

問 ワクチン接種無料化の継続を

寄定秀幸議員



答 来年度も継続したい

Q 住民の安心生活のため、健康と生命を守る最も重要な施策である、「子宮頸がん予防ワクチン」「ヒブワクチン」「小児用肺炎球菌ワクチン」接種の無料化を継続すべきでは。

A 町長 牧野町政の目玉として福祉・医療を重点的に補助してきた。来年度も継続したい。国の制度は終わるが、少子高齢化が進む中、少子化対策の一環であると思っている。

Q 高齢者用肺炎球菌ワクチンの無料接種も継続すべきでは。

A 保健課長 高齢者に対する有益な事業として、町長の政策判断で今年度から実施している。次年度も引き続き継続したい。

Q 土砂災害から住民の生命財産を守るため、土砂災害ハザードマップを作成をすべきでは。

A 町長 土砂災害ハザードマップ作成に対しては同感である。「地域防災計画」の見直しも必要である。

Q 女性の視点を防災に生かすことが必要である。防災会議メンバーに女性を登用すべきだ。

A 副町長 是非検討したい。投票所数削減が検討されているが、投票所数削減による投票率低下が懸念される。どう対応するのか。

Q 経費削減と職員数に無理がある事と併せ、高齢化などで投票立会人の選任が困難なため削減を検討している。

A 選挙書記長 投票率低下とならないよう、期日前投票の充実・推進などに努める。

Q 宣誓書を事前に記入できるよう、入場券の裏に印刷すべきでは。

A 選挙書記長 宣誓書を事前に記入できるように検討する。

Q 公明選挙の啓発にどう取り組むのか。

A 選挙書記長 「3ない運動」の周知など、公職選挙法に基づく政治家の寄付行為禁止事例の周知などに取り組み、公明・正大な明るい選挙を推進する。

Q 地域内の一貫体制モデル確立のため次年度からの取組は。

A 町長 生産牛の拡大と一環システム強化肥育の2本立てで行う。ゼロからスタートの気持ちで意欲を持って取り組むたい。

問 神石牛ブランドで全国制覇を

木野山孝志議員



答 長い期間が必要だが意欲を持って取組む

Q 県は神石牛と比婆牛の系統間交配を行い良質な肉質を持つ「広島牛」として、全国展開している。今は地方の時代と言われ、まちづくりは地方の力量にかかっている。以前は、広島牛と言えは神石牛のことだった。再び「神石牛」ブランドを確立し全国制覇を目指したらどうか。

A 町長 神石牛のブランドを作ろうと思ったら肥育農家を育成強化し、生産牛の素牛を出来るだけ神石郡内で飼育する事により、純粋な神石牛となれば、松阪牛に劣らないようになると思う。それには長い期間が必要だ。

Q 広島牛の中に埋もれてしまった神石牛の種の確立は出来るのか。現状と今後の方向性は。

A 町長 今は肥育を行って初めて神石牛の基礎が出来てくる。基本的には町内で肥育農家の強化を行い、量が確保できれば可能だ。

Q 和牛再生プロジェクトで「和牛の里」などで飼養頭数が200頭、新規就農者の就農など成果が上がった。今後はそれを踏まえ、優良な子牛を生産し優良な成牛に育てることを目標にしたい。

Q 長期目標の実施を。

A 町長 県の未来創造支援事業で6次産業など、優先順位を決めており、全部やる程の財政状況でなく、弾力的に次年度で考えて行くが、他の町より農業補助金は付けてある。

Q 地域再生戦略会議による施策支援は。

A 副町長 地域再生戦略会議の提案による、交流センターの改築、産品販売、182ステーションの構造改革、ドッグランなどの提言があった。農業問題や商工連携について新年度に議論する。



神石郡畜産共進会

Q 目標頭数は平成27年度で2千頭である。

A 町長 生産牛の拡大と一環システム強化肥育の2本立てで行う。ゼロからスタートの気持ちで意欲を持って取り組むたい。

問 農業の基本戦略は

村上克朗議員



答 赤と黒を核に取り組む

Q 農業再生の戦略的予算への重点措置は、「夢創造委員会」でも提言している。

A 町長 答申を総合的対策として尊重し、「赤と黒」の育成強化②生産力の高い担い手育成強化③農地有効活用を図っており、適切な町独自の助成を行っている。

Q 集落営農法人は農地保全に努め、地域維持に必要な組織である。組織化に欠かせないリーダーを育成するため、養成講座の予算化は。

A 町長 新規就農者が定住できるように、リーダー育成の農業研修や営農指導が徹底できる機関の設置を考えている。

Q 若者の雇用促進・農産物の地域ブランド化に向け、農・商・工連携や専門的講師の指導など、長期目標の実施を。

A 町長 県の未来創造支援事業で6次産業など、優先順位を決めており、全部やる程の財政状況でなく、弾力的に次年度で考えて行くが、他の町より農業補助金は付けてある。

Q 地域再生戦略会議による施策支援は。

A 副町長 地域再生戦略会議の提案による、交流センターの改築、産品販売、182ステーションの構造

Q 神石高原町版、担い手法人の育成は。

A 町長 せっかくの提案なので私とすれば一考に値する点であり調査研究してみたい。

Q 新規就農者の育成支援は。

A 町長 新規就農や定住につながるように、研修なり営農指導を徹底させたい。農業公社を営農支援センターに改編し総合的に考えていきたい。



夢創造委員会

問 ミツバチの里夢プランの実現は

藤田晃己議員



答 新産業として取り組みたい

Q 農地を守り荒廃地に歯止めをかける方策として、油木高校の産業ビジネス科の生徒たちがレンゲ・ソバなどを栽培しミツバチの里として観光客を呼び込み地域の活性化とハチミツの販売による実益を提案しているがこの実用化は。

A 町長 高等学校の教育の中からの提案である。神石高原町の活性化・農業の再生・新産業としての取り組みをしてみたいと思

Q 色々とハードルはあると思うが順次解消していけば可能だと思っっている。

A 町長 西日本にはナマズの食習慣がない。商品化しても、販売が出来ないと問題があるので、関東へ行って調査してみたい。

Q 農業法人の育成の今後の取り組みは。

A 町長 県内で211法人、町内で13法人あるが、法人を作ればすべてよしという訳ではない。深刻な課題も沢山ある。しかし農家の人にもやる気を起こさせるのも大切である。集落の維持は法人が一つの要素になるが、PPPに加入すれば再考しなればならない。

Q 農地の貸し手に対する助成は。

A 町長 単町として取り組む

Q 神石高原町版、担い手法人の育成は。

A 町長 せっかくの提案なので私とすれば一考に値する点であり調査研究してみたい。

Q 新規就農者の育成支援は。

A 町長 新規就農や定住につながるように、研修なり営農指導を徹底させたい。農業公社を営農支援センターに改編し総合的に考えていきたい。

Q 神石高原町版、担い手法人の育成は。

A 町長 せっかくの提案なので私とすれば一考に値する点であり調査研究してみたい。

Q 新規就農者の育成支援は。

A 町長 新規就農や定住につながるように、研修なり営農指導を徹底させたい。農業公社を営農支援センターに改編し総合的に考えていきたい。